

2007年6月末から8月末までの2ヶ月間、ブラッセルのEU関係機関が集中する場所に所在するEuropean Institute for Asian Studies (EIAS)でインターンとして勤務しました。高校生のころからEUに興味をもち、大学進学後は、EUIJを通してICUのみでなく他大学でもEU関連の授業を履修したり、公開講演会やセミナーに参加したりとEUについて学ぶ多くの機会を得てきました。本記事では私のEIASでの2ヶ月に亘るインターンの報告をさせていただきます。

私をインターンとして受け入れて下さったのは欧州アジア研究所 (EIAS) です。EIASはEUとアジアの相互理解と協力の促進を目的としたシンクタンクであり、政治、経済、安全保障等様々な領域におけるEU-アジア関係、また、双方の関係強化に伴う世界への影響などに関して研究し、セミナーや会議を催したり、出版物を発行したりしています。(研究機関に関する詳細は次のHPを参照 <http://www.eias.org/>)

私に与えられた仕事は2つの課題について調査し、報告書をまとめることでした。第一の課題はもう一人のインターン生と共同で、「アジアの議会制民主主義」に関する調査をすることでした。上記の英国の大学で学ぶバングラデシュ出身のインターンが南アジア地域協力連合 (SAARC)、私が東アジア諸国連合 (ASEAN) を担当しました。まず、各々の地域連合に属する国々がどのような議会制度を持っているのか (議会制民主主義制度が採用されているかどうかを中心に)、また、各々の連合自体の背景や目的、現状について調べました。さらに、双方の地域で近年議論が活発になされている、アセアン議員会議 (ASEAN Inter-Parliamentary Assembly, AIPA) 等の議会間組織の背景や現状、今後の展望についても調査しました。

第二の課題は個人研究で、「日-EU 戦略対話」についての調査を行いました。「日-EU 戦略対話」は安全保障に関わる対話であるため、欧州委員会、欧州理事会、日本のEU代表部での面接調査による情報収集を行いました。

課題ごとに調査をすることを通して、各々のテーマに関する知識や情報、専門的助言をEIASの研究者の方からいただき、また、実際に調査しながらの研究の進め方を学ぶこともできました。前者の調査ではアジアでも議会制民主主義制度の国々が多いことや、現状としては実施上、向上の必要な国も多いこと、現在は取り入れていない国々でも導入に向けて国内において様々な動きがあることがわかりました。また、AIPAに関しては、欧州議会を理想として名実共に「議会」としての機能を持たせようと、ASEAN地域において関係強化が図られていることなどを学ぶことができました。さらに、SAARCでも議会連合に関する議論が近年挙がっていることなどがわかりました。この研究では欧州議会に長年勤められており、欧州やラテンアメリカ、またアジアの議会制民主主義に関する研究をされているEIASの研究者の方がご指導くださったので、アジアや欧州の歴史に基づく多くの助言をいただくことができました。

第二の課題では、インタビューのために実際に政策に関わっている方々にお会いしてお話を伺うことができました。同じ質問に対し、異なる回答もあり、欧州と日本の各々の視点、また、欧州委員会と欧州理事会の役割の違いを実感することができました。また、この戦略対話によって、EUの東アジアに対する理解が高まってきているということもわかりました。

以上のように、2ヶ月間のインターンシップを通して、大変充実した貴重な経験をさせていただきました。シンクタンクの日常業務に携わったり、各々の課題においてご指導くださったEIASの研究者の方々や異なるEU関係機関の職員、同僚のインターンなど、多くの方々との意見交換できたことも大きな収穫であったと思います。また、今回のインターンシップを通して、これまでEUについて学んできたことを再確認し、より深く理解できた

感じると共に、実際に現地に身を置き学ぶことの意義深さを実感しました。このような貴重で有意義な経験をさせてくださったEIASやインタビューを受けてくださった方々、また、バックアップしてくださったEUIJに深く感謝いたします。

大西彩乃